

令和5年度 第1回尾道市総合教育会議 次第

日時：令和5年12月21日（木）
午後1時15分～
場所：市役所4階委員会室

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 協議
 - (1) 学校教育の在り方について・・・別紙①
(健康で元気な子どもが育つ環境づくり)
 - (2) 部活動の地域移行について・・・別紙②
- 4 閉会

第1回尾道市総合教育会議 出席者名簿

1 構成員

尾道市

市 長	平谷 祐宏
-----	-------

尾道市教育委員会

教 育 長	宮本佳宏
教育長職務代理者	奥田浩久
委 員	豊田博子
委 員	村上正則
委 員	村上節子

2 説明員

教育総務部長	川 鱒 雄 一
学校教育部長	小 柳 哲 雄
庶務課長	末 國 照 明
生涯学習課長	井上伸一郎
因島瀬戸田地域教育課長	榎原恭子
美術館長	新 苗 美 緒
学校経営企画課長	三 浦 敏 忠
教育指導課長	石 本 美 喜

議題(1) 学校教育の在り方
(健康で元気な子どもが育つ環境づくり)

○「健康で元気な子ども」のために

- ・朝食を毎日食べている児童生徒の割合
小6・中3 全国学力・学習状況調査結果の推移から
- ・現在の食育の取組
掲示・放送・便りによる啓発 栄養3・3運動 など
- ・心の栄養としての読書活動の推進

○「自分を大切にできる、他の人も大切にできる」環境づくり

自分を大切にするには 自己肯定感の向上(ほめる活動 久保小学校)

- ・自分によいところがあるととらえている児童生徒の割合
小6・中3 全国学力・学習状況調査結果の推移から

他の人も大切にするには 絆づくり(クラス会議 栗原北小学校)
学校行事・特別活動の活性化

自他両面への取組として 自己肯定感・絆の両面
(芸術祭音楽コンクール・音楽祭・リーダー研修会)

○「自分を大切に、他の人も大切にできる」ためには

集団が安全・安心な場になる必要がある

- 授業では 学び合い・教え合い(「むかいひがしの対話」 向東小中学校)
⇒ 学力の向上 不登校の減少

○不登校について

- ・不登校児童生徒数の推移
昨年度の要因分析から 学業不振・不適應 が見えてきた

今後の方向性 学力向上と集団づくりに力を入れていく

令和5年度
第1回 尾道市総合教育会議

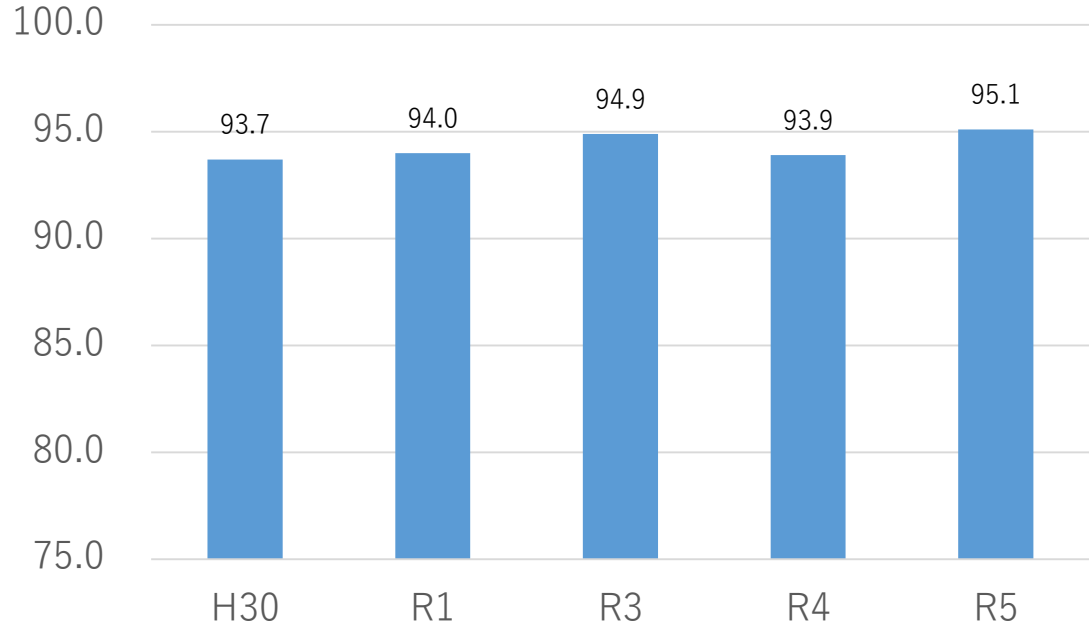
学校教育の在り方について
～健康で元気な子どもが育つ環境づくり～

教育指導課

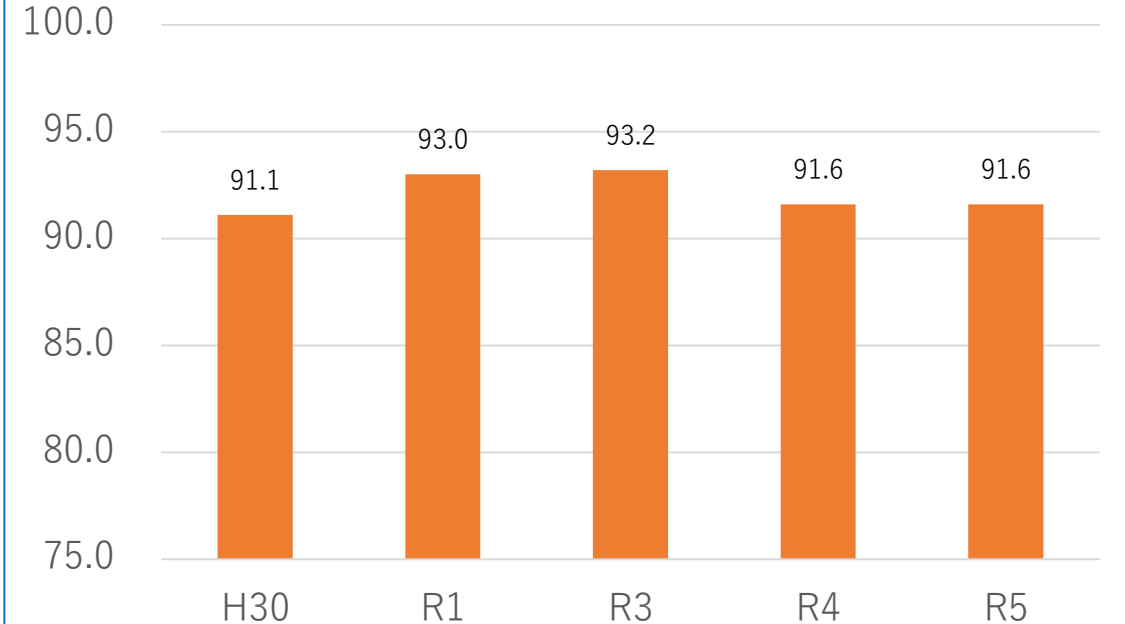
「健康で元気な子ども」のために

児童・生徒質問紙回答状況(小6・中3)H30～R5

【小学校】朝食を毎日食べていますか



【中学校】朝食を毎日食べていますか



「健康で元気な子ども」のために

「心の栄養」としての読書活動の推進

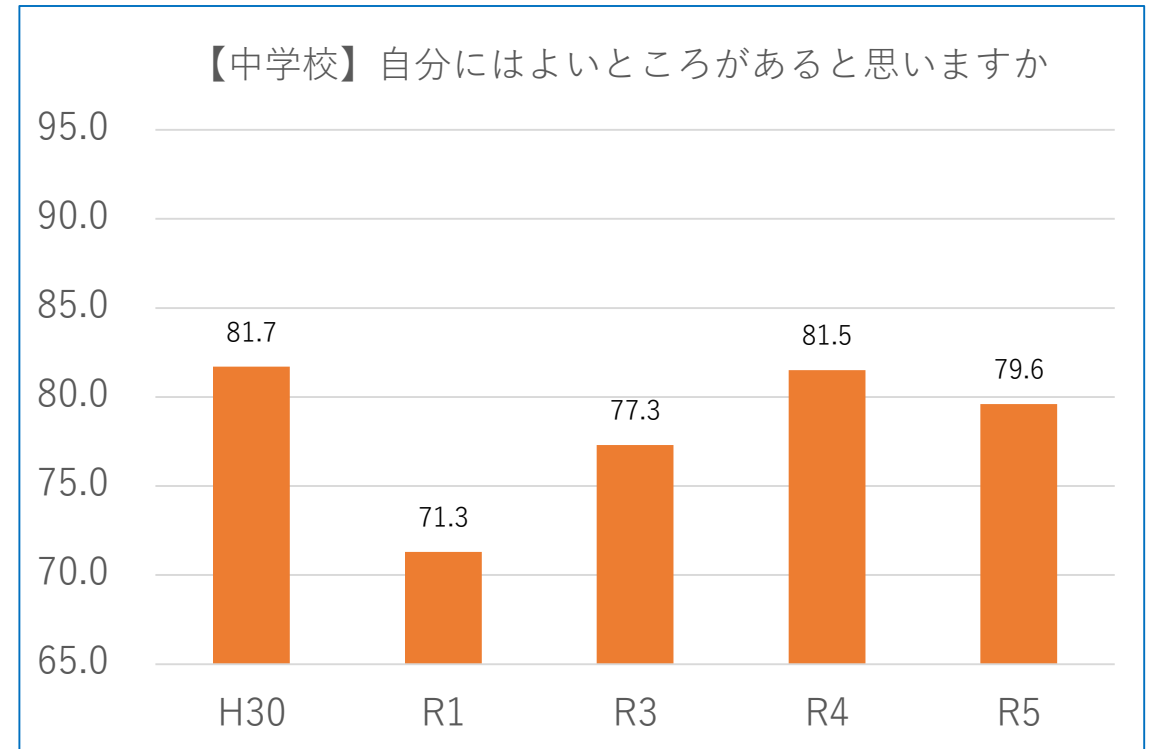
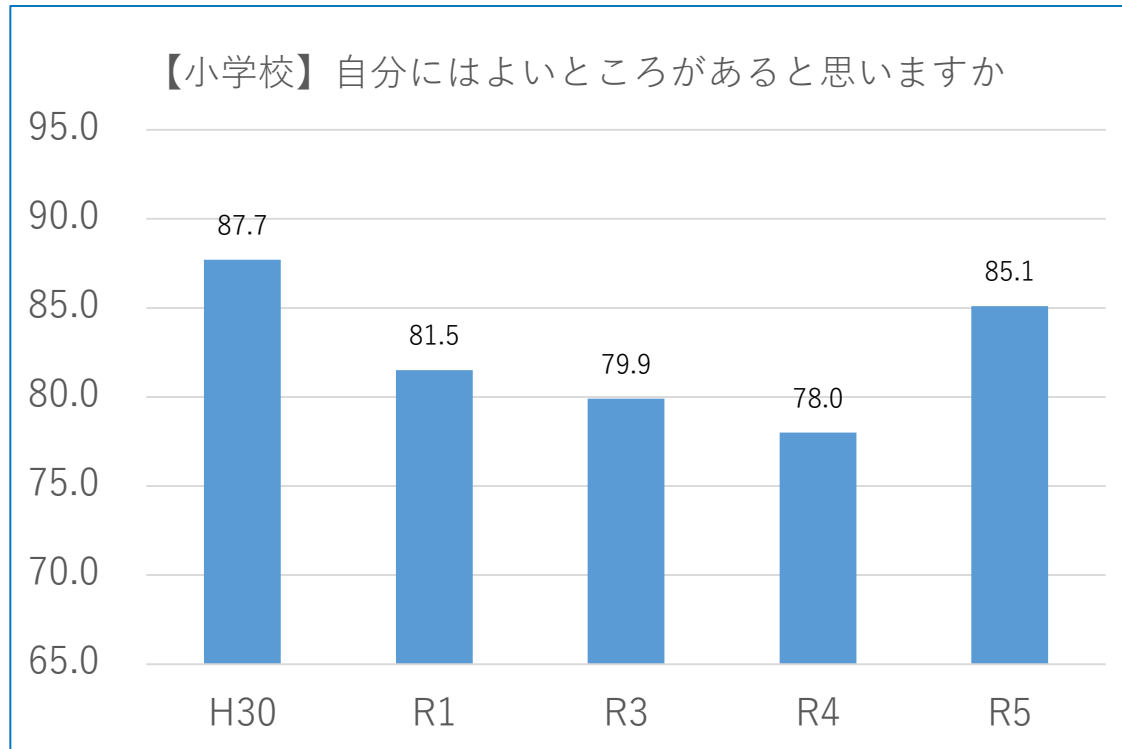
- 冊数はあるが活用がされていない本がある、
- 開架する場所が足りず、別の場所に保存するのみ
- 手に取りやすく活用しやすいレイアウトにできない

開架場所を確保し、手に取りやすいレイアウトとし
活用しやすい図書館へ

計画的に廃棄を進めていく

「自分を大切にできる、他の人も大切にできる」環境づくり

児童・生徒質問紙回答状況(小6・中3)H30～R5



「自分を大切に、他の人も大切にできる」ためには

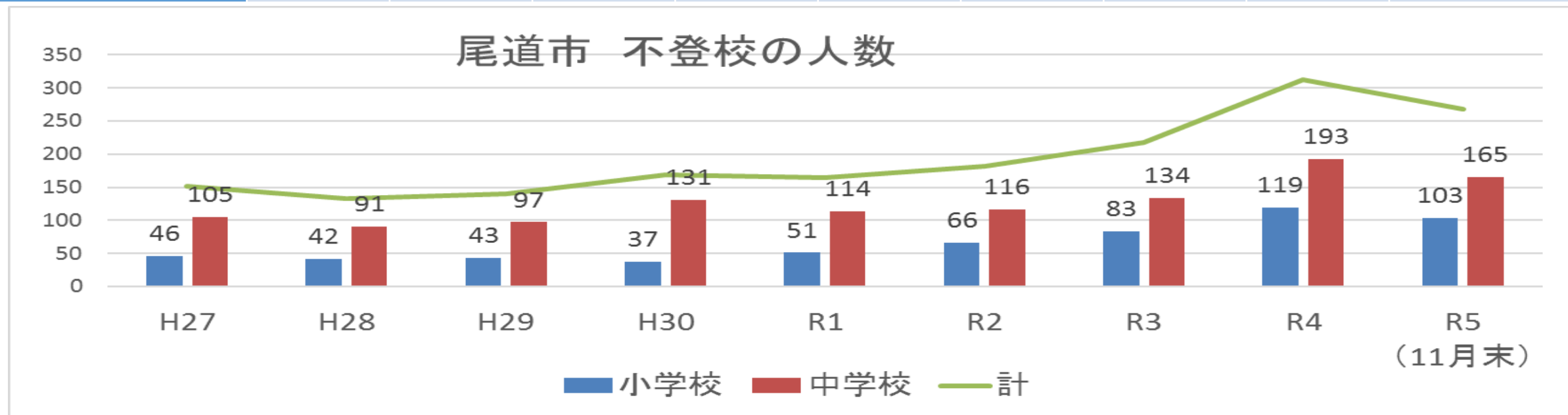
向東の対話～対話で学ぼう～(向東小中学校)

- む 向かい合って話そう
- か 考えをもとう
- い 意見を広げ深める
- ひ 批判しないで、受け入れよう
- が 外部の意見を参考にしよう
- し 正直に本音で話そう
- た 多面的・多角的に考えよう
- い 意見に対して問い返そう
- わ 私の意見や生き方を改めて見つめてみよう

不登校について

本市における不登校児童生徒数の推移 H27～R5

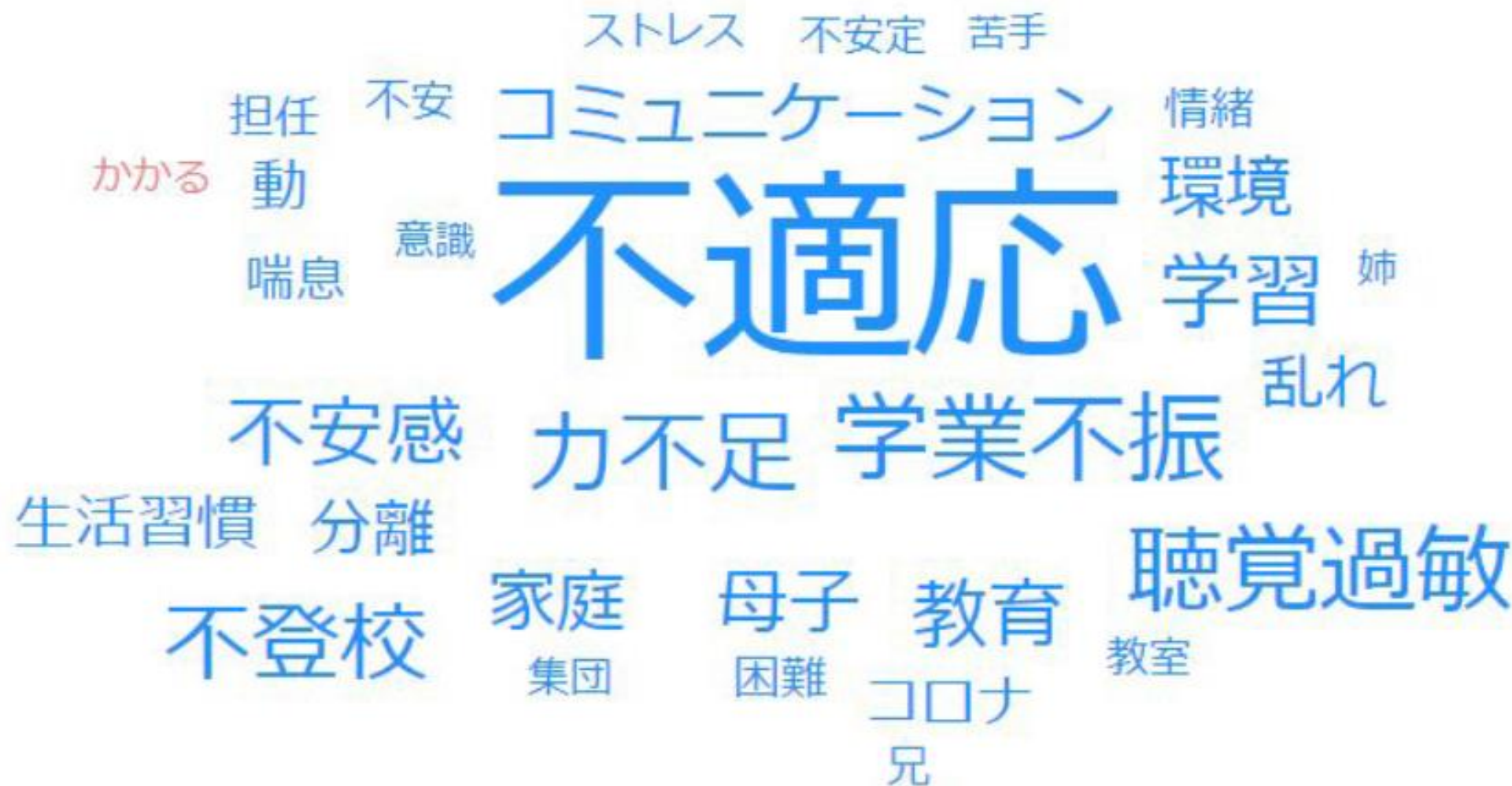
《不登校》	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5 (11月末)
小学校	46	42	43	37	51	66	83	119	103
中学校	105	91	97	131	114	116	134	193	165
計	151	133	140	168	165	182	217	312	268



不登校について

小学校1年生

R4不登校要因分析



不登校について

小学校2年生

R4不登校要因分析



不登校について

小学校3年生

R4不登校要因分析



不登校について

小学校4年生

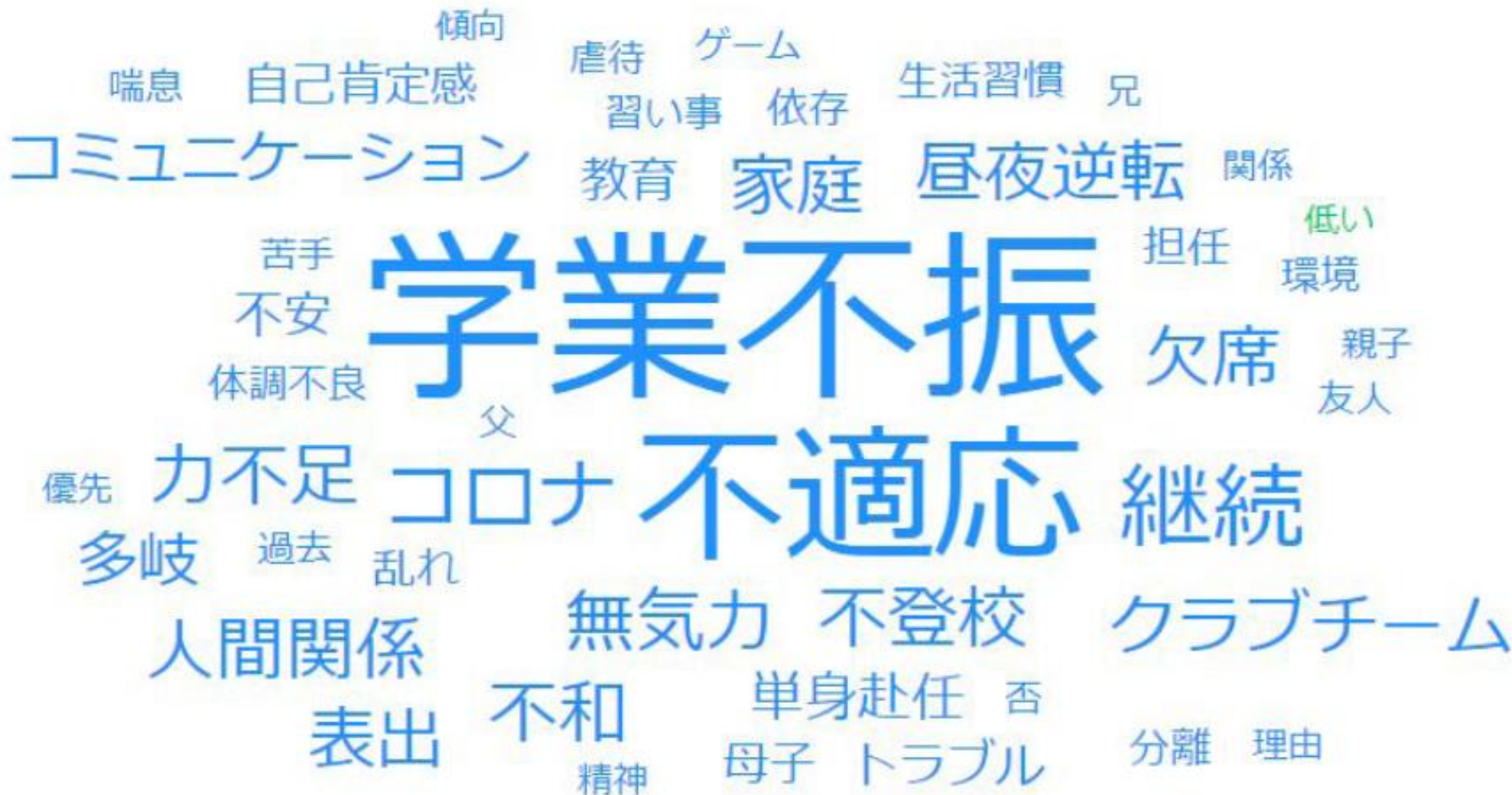
R4不登校要因分析



不登校について

小学校6年生

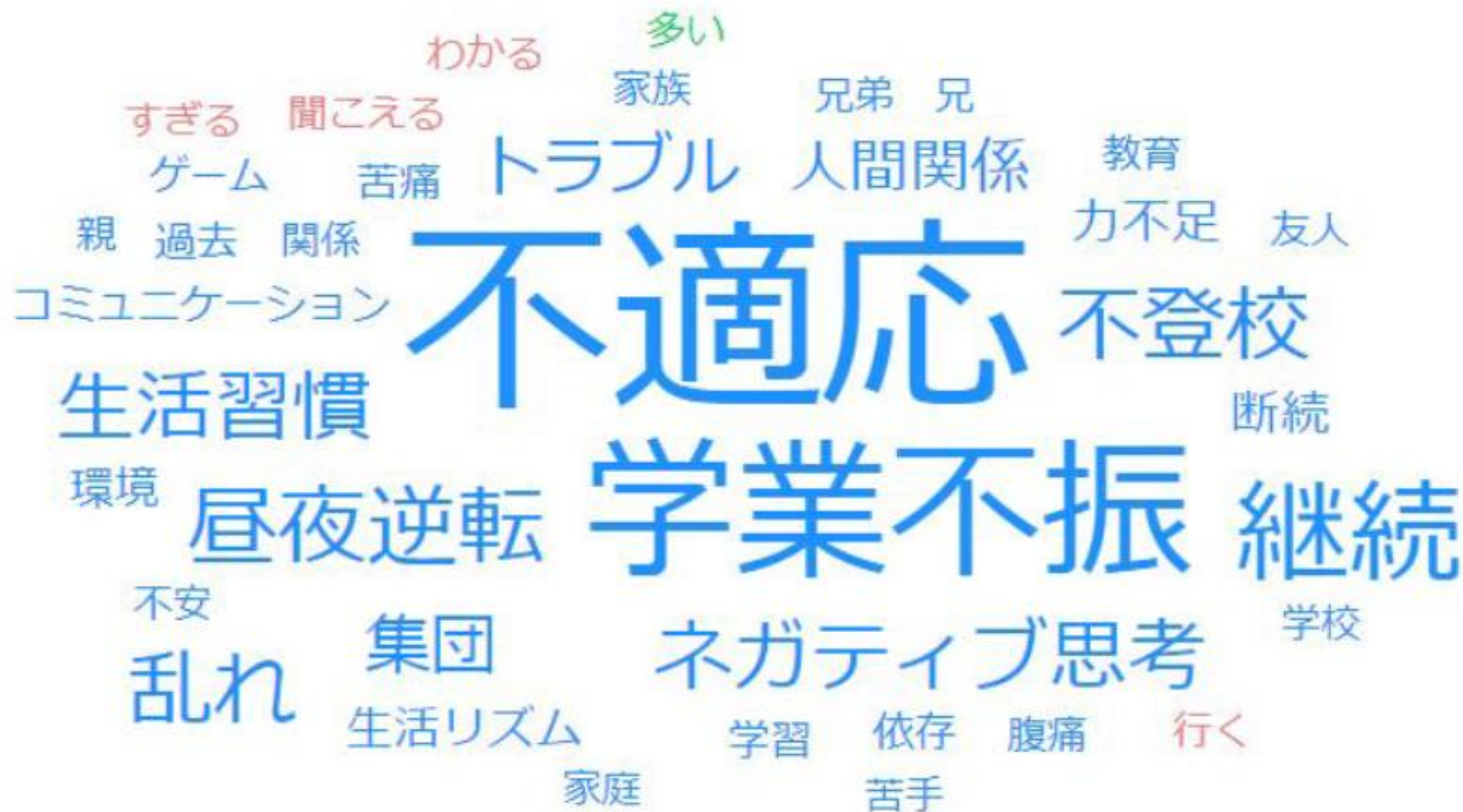
R4不登校要因分析



不登校について

中学校1年生

R4不登校要因分析



不登校について

中学校3年生

R4不登校要因分析

理由 コミュニケーション



休日の部活動の地域移行について

1. 国の動向

「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」

(令和4年12月スポーツ庁文化庁) **資料1**

- 少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる機会を確保するため、速やかに部活動改革に取り組む必要。
- 部活動の地域移行に当たっては、「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備。地域の実情に応じ生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することが重要。



- ・まずは休日における地域の環境の整備を着実に推進
- ・市区町村が運営団体となる体制や、地域の多様な運営団体に取り組む体制など、段階的な体制の整備を進める
- ・令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として地域連携・地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて可能な限りの早期の実現を目指す。

2. 本市における取組について

ア)「尾道市立中学校における部活動の在り方に関する検討委員会設置要綱」

(令和5年4月改正)

- 中学校長会長・中学校体育連盟会長・教育委員会事務局職員から成る検討委員会を拡大し、学識経験者・保護者代表・体育協会代表・文化協会代表・競技団体代表を加え、本市の実態に応じた地域移行の具体的な在り方について、検討を行っている。
(令和5年度は7月19日と11月1日の2回実施)



休日部活動の地域移行の必要性についての共通認識はできつつあるが、休日にスポーツ・文化芸術活動を実施できる環境の構築について、地域で活動しているクラブやサークル等に生徒が参加し、地域の方々とともに活動を行う方法や、地域に新たなクラブを設立する方法などを例示しているが、明確な方向性を見出すことはできていない。

イ)「尾道市おのにゃん文化・スポーツチャレンジ教室」

○開催の趣旨

休日の部活動の地域移行に向け、尾道市教育委員会主催の文化・スポーツ教室を開催し、生徒のニーズを把握するとともに、活動状況等を踏まえ、今後の部活動の在り方を検討する。

○内容

	期 日	時 間	参加人数	場 所
【ダンス（ブレイクダンス）】 定員30人 申込4人 講師：南本研志 他1名				
①	6月18日（日）	9:00～12:00	2名	尾道市民センター むかいしまココロ
②	7月16日（日）	9:00～12:00	2名	
③	9月 9日（土）	9:00～12:00	1名	
④	10月22日（日）	9:00～12:00	1名	
⑤	11月25日（土）	9:00～12:00	2名	
【バドミントン】 定員30人 申込11人 講師：中村敬子				
①	9月17日（日）	9:00～12:00	5名	向島運動公園体育館
②	10月 8日（日）	9:00～12:00	6名	
③	11月26日（日）	9:00～12:00	2名	御調体育センター
④	12月10日（日）	9:00～12:00	5名	
【科学研究】 定員15人 申込10人 講師：日東電工株式会社 職員5名				
①	6月18日（日）	13:00～15:00	10名	尾道市民センター むかいしまココロ
②	7月16日（日）	10:00～12:00	10名	
③	8月 6日（日）	10:00～12:00	7名	



- ・講座に参加した生徒からは、バドミントン講座では「学校の部活動にはない活動で良い経験になった」「他の学校の生徒と仲良くなれた」、ダンス講座では「運動するよい機会になった」、科学研究講座では「たくさん質問できてよかった」といった声があった。
- ・令和4年度に実施した中学生対象のアンケートで一定の参加希望があった3つの種目について開催したが、実際に参加した生徒は少なく、休日に学校の部活動をしている実態を考慮せず開催したことが課題であると捉えている。

3. 今後の取組について

- ・検討部会では、休日部活動の地域移行の環境をどう構築していくか、運営団体や実施主体、指導者の確保、活動場所（島嶼部・山間部といったエリアはどうか。）保護者負担の軽減、保険の在り方等について、具体的な方向性を見出していく。
- ・中学生対象のアンケートを再度行うことで（令和6年1月予定）、生徒のニーズを把握し、来年度の「尾道市おのにゃん文化・スポーツチャレンジ教室」の内容や開催方法等について検討していく。